

元気のジャンク

△46△



徳島大学病院皮膚科

久保 宜明

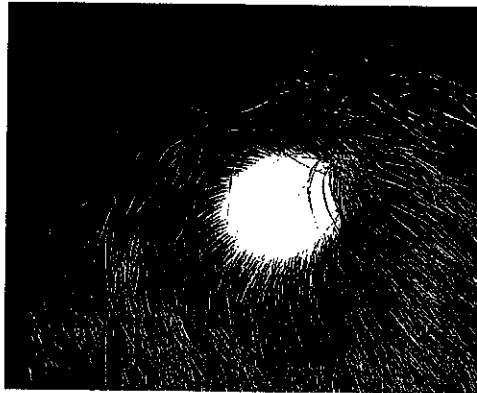
円形脱毛症は、頭髪が円形に抜ける病気で、当院でも小児から入来し、悩んでいる患者様が多いです。一般に、円形脱毛は「または数週間、戻りますが、程度が軽いかは不定し、すべの頭髪も抜けることもありますが、頭髪が戻らずともまひ、体毛が抜けることもあります。

円形脱毛症

治療方法は、リンパ球を攻撃して脱毛が進行している「慢性期」は、炎症がほぼ終息して症状が固定した「慢性期」の二つに大別されます。

れていますが、誘因のはっきりしない患者も多く、発症の全体像はまだよく分かっていません。ただ、このようにして毛が抜けるかについては、かなり研究が進んできました。毛は、根元にある「毛母細胞」が分裂・分化することによって作られます。しかし、自己のリンパ球が攻撃を来し、毛母細胞を攻撃してダメージを加えることで毛が抜けていくと考えられています。

小児も発症の可能性



小児から成人まで患者の多い円形脱毛症。一種の自己免疫反応で起ることが分かっています。

球の働きを抑える目的で、療法「が効果的です。また抗炎症作用の強いステロイド剤を外用します。少量の小児には使えません。ステロイド剤を1日1〜2回、脱毛部と周囲の皮膚の両方に塗ります。塗り広げるように塗ります。広範囲に脱毛している場合は、急速に脱毛する場合は、ステロイド剤を点滴してステロイド剤を「D」などの化学物質を添着する「ステロイドバルス」毛髪を塗り、その間に自己

体質やストレスが誘因

然に治るような軽度の炎症を起してはじめて脱毛効果が見られます。強いアレルギーでない限り副作用はなく、小児にも有効です。

治療の目的は、脱毛部の周囲の毛根を攻撃してリンパ球の働きを抑えること、リンパ球が毛根を攻撃して脱毛が進行している「慢性期」は、炎症がほぼ終息して症状が固定した「慢性期」の二つに大別されます。

治療方法は、リンパ球を攻撃して脱毛が進行している「慢性期」は、炎症がほぼ終息して症状が固定した「慢性期」の二つに大別されます。

小児の円形脱毛は自然治癒も期待できます。しかし、円形の脱毛があっても円形脱毛症とは限りません。また、ステロイドバルス療法は、発症半年以内に行う必要があります。

治療の目的は、脱毛部の周囲の毛根を攻撃してリンパ球の働きを抑えること、リンパ球が毛根を攻撃して脱毛が進行している「慢性期」は、炎症がほぼ終息して症状が固定した「慢性期」の二つに大別されます。